

2021 年度臨床研究 Award の受賞者決定について

会員 各位

周産期臨床研究コンソーシアム委員会

委員長 齋藤 滋

副委員長 左合治彦

早川昌弘

日本周産期・新生児医学会では、新たな多施設共同の臨床試験や疾患レジストリの企画・立ち上げを支援することによって、周産期新生児領域の臨床研究の活性化と当該領域における患者・家族の予後や QOL 向上に貢献することを目的として、「日本周産期・新生児医学会臨床研究 Award」を設立し、初めての応募を行いました。その結果、19 題の臨床研究の応募がありました。多くの応募に感謝申し上げます。

本委員会では、臨床研究（特定臨床研究または医師主導治験）の研究企画であることと、多施設共同前方視的疾患レジストリの研究企画であることを評価の主眼とし、外部の臨床研究の専門家による意見も参考とさせていただき、委員及び幹事による一次評価、一次評価を基にした委員長と副委員長による二次評価を行いました。更に、二次評価結果について理事会で審議した結果、下記 4 課題を 2021 年度臨床研究 Award として採択しましたので、ご報告いたします。

【採択された臨床研究】

1. 漆山 大知（福岡大学病院 産婦人科）
絨毛膜羊膜炎発症ハイリスク切迫早産症例を対象とした治療的抗菌薬投与による第 II 相臨床研究
2. 宮原 直之（埼玉医科大学総合医療センター 小児科）
在胎期間 25 週未満の超早産児に対する間欠的陽圧換気法と高頻度振動換気法のランダム化比較試験
3. 津田 兼之介（名古屋市立大学病院）
新生児低酸素性虚血性脳症の高次脳機能を中心とした長期予後と新たな低体温療法の適応を探索する大規模前方視的レジストリ研究
4. 三好 剛一（国立成育医療研究センター）
胎児頻脈性不整脈および徐脈性不整脈の疾患レジストリを用いた予後調査

若手医師の臨床研究の立ち上げを支援することにより、周産期領域の新たなエビデンスの確立や新規診断法等に繋がっていくことを期待しております。本 Award は、毎年募集しますので、会員の皆様からの多くの応募をお待ちしております。